

# 利尻島におけるオオハンゴンソウ分布調査 - 2006年と2011年の比較 -

環境省 稚内自然保護官事務所

## オオハンゴンソウとは

オオハンゴンソウは北アメリカ原産のキク科の多年生草本。日本には明治時代に観賞用として導入されたが野生化し、現在では本州中部以北の寒冷地を中心に広く分布している。

在来の生態系に影響を与えるため、外来生物法により特定外来生物に指定されている。



## 利尻島におけるオオハンゴンソウ防除の取り組み

利尻島のオオハンゴンソウは、1970年代後半から1980年代にかけて分布を始めたと考えられている。

防除に関する活動は、2001年に利尻島自然情報センターと利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティアの会が中心となって駆除を開始したのが始まりである。さらに2005年からは環境省のグリーンワーカー事業も行われ、官民が連携してオオハンゴンソウの防除に取り組んでいる。2001年から2011年までの11年間の駆除本数は564,053本である。



駆除作業の様子

表1. 利尻島におけるオオハンゴンソウの駆除実績

	駆除本数
2001年	6,000
2002年	6,500
2003年	2,740
2004年	5,510
2005年	38,705
2006年	48,600
2007年	66,413
2008年	84,079
2009年	82,937
2010年	94,030
2011年	128,539
合計	564,053



調査の様子

## 調査目的

利尻島内におけるオオハンゴンソウの現在の分布状況と2006年に行われた分布調査の結果との比較から、分布状況の変遷及び防除活動の効果を明らかにすることを目的として行った。

## 調査方法

本種開花期である2011年8月25日に、利尻島内の環状道道、町道及び自転車道路沿いからの目視により行った。調査は、利尻町立博物館、利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティアの会等により行った。

調査項目は、群落の緯度経度、分布地の分布規模と分布密度である。群落の緯度経度についてはGPSを用いて測定し、分布規模、分布密度については2006年調査に準じて測定、算出した。(分布規模が概ね100本以下と見込まれる分布地では実数を数え、それ以上と思われる分布地では、GPS又は巻き尺を用いて各群落の面積を測定し、実数に代わる規模を推定。分布密度は1㎡当たり60本以上を「密」、1㎡当たり40本前後を「中」、1㎡当たり20本以下を「疎」と定義し、推定本数の算出に利用。また、パッチ状に小群落が集合しているような分布地では、小群落ごとの実数や面積をそれぞれ測定し、1つの分布地点として合算して算出。)

## 結果と考察

### ◆推定分布数

利尻島全体でオオハンゴンソウの分布が確認されたのは19地区で99地点であった。推定分布数の総数は1,610,990本であった。

### ◆地域ごとの分布状況

利尻島西部、南部、南東部に分布が集中している。杓形、仙法志、鬼脇といった集落規模の大きい地域での分布が多く見られるが、島内で最大規模の集落であり、利尻島の主な玄関口であるフェリーターミナルがある鴛泊ではほとんど分布が確認されなかった。

また、種富や南浜といった湿地周辺で大規模な群生地を形成しているとともに、南西部や東部に飛び地的に分布地が点在していることがわかった。

### ◆2006年と2011年の分布状況の比較

特に野中、南浜、鯉泊において著しい減少が見られた。しかし、これら3地区のうち2006年から2011年8月までで駆除実績があるのは南浜の約22万本のみであるにも関わらず、今回の調査では2006年調査時に比べ約144万本減少している。また、2006年調査時の利尻島全体における推定分布数は約310万本とされたが、今回の調査では約161万本と約半分減少している。2006年から2011年8月までの本種駆除実績は約47万本であり、単純に駆除分を差し引いても6年間で100万本以上が自然に減少したとは考えにくい。このような調査結果になったのは、上記3地区について2006年調査時は集落全体の面積から推定分布数を算出したのに対し、今回は群落ごとに実数や面積を測定し算出しており、より実数に近い推定分布数を算出できたことが理由と考えられる。

#### ◆新たな分布地

新たに分布が確認された地区として、元村、御崎、港町、本泊の4地区がある。周辺の分布地から自然的要因によって種子が拡散したもの、工事や菜園に使用された客土中の埋土種子などが由来として考えられる。また、島内では園芸目的で栽培されたと思われる群落もあり、オオハンゴンソウについてより一層の周知が必要である。

#### ◆駆除の効果

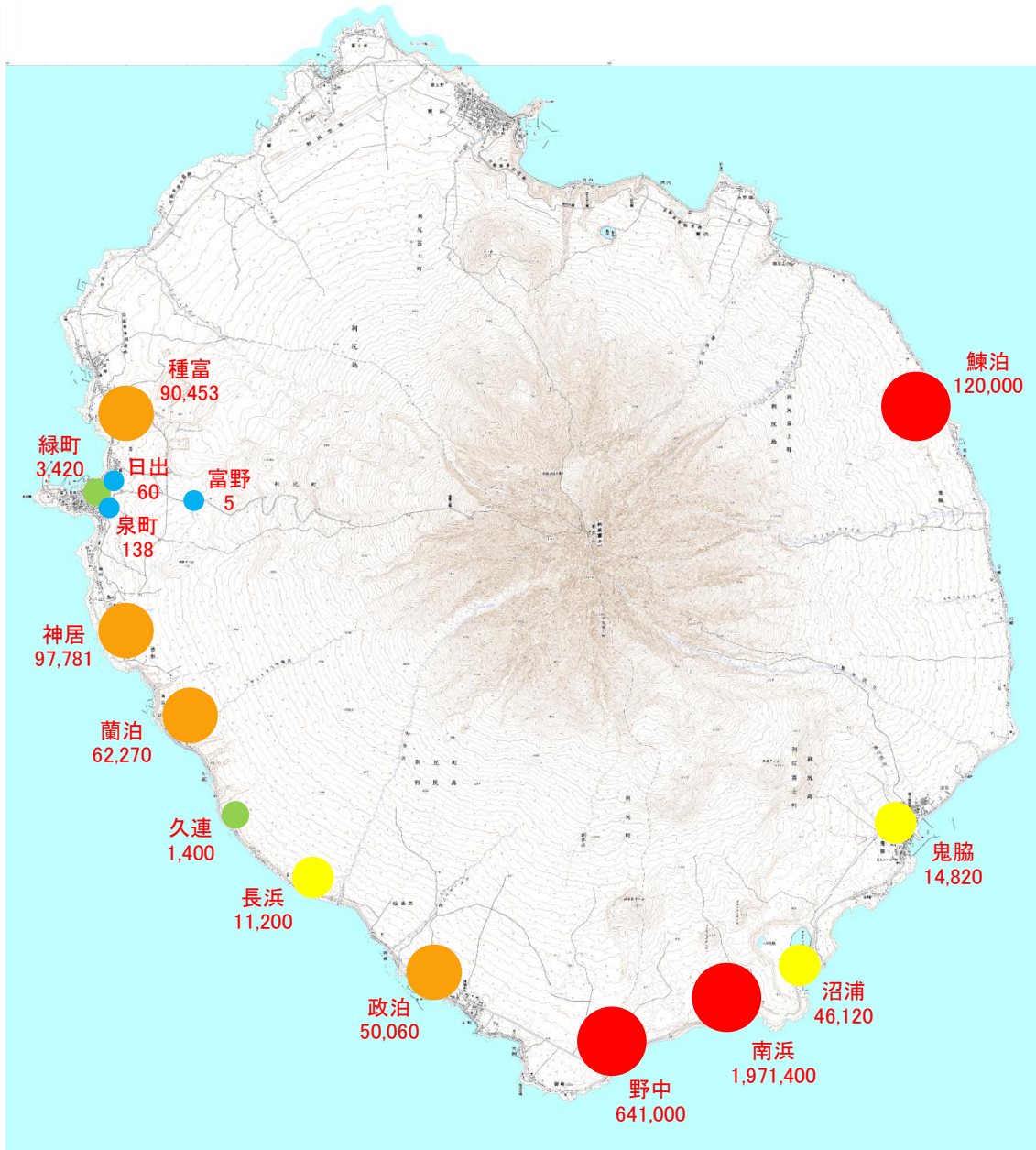
種富地区全体での分布数は僅かな減少に留まったものの、継続的に除去を行ってきた種富湿原で大幅な減少が見られた。同じく駆除圧の高い沼浦地区では根絶に近い状態であることから、継続的な駆除活動がオオハンゴンソウの防除に関して一定の効果があることが認められる。

#### ◆まとめ

今回の調査では、調査方法の変更もあり現在の分布状況について前回調査時より精度の高い結果を得ることが出来た。しかし、分布の推移状況や防除活動の効果の把握という点では更なる精度の向上が必要と考えられた。

利尻礼文サロベツ国立公園にも指定されている利尻島の固有な植生を保全するためにも、今後は、今回の結果も踏まえさらに島内で協力し合い、オオハンゴンソウの防除に取り組むことが求められる。

図1 - 1. 利尻島におけるオオハンゴンソウ分布状況 (2006年)

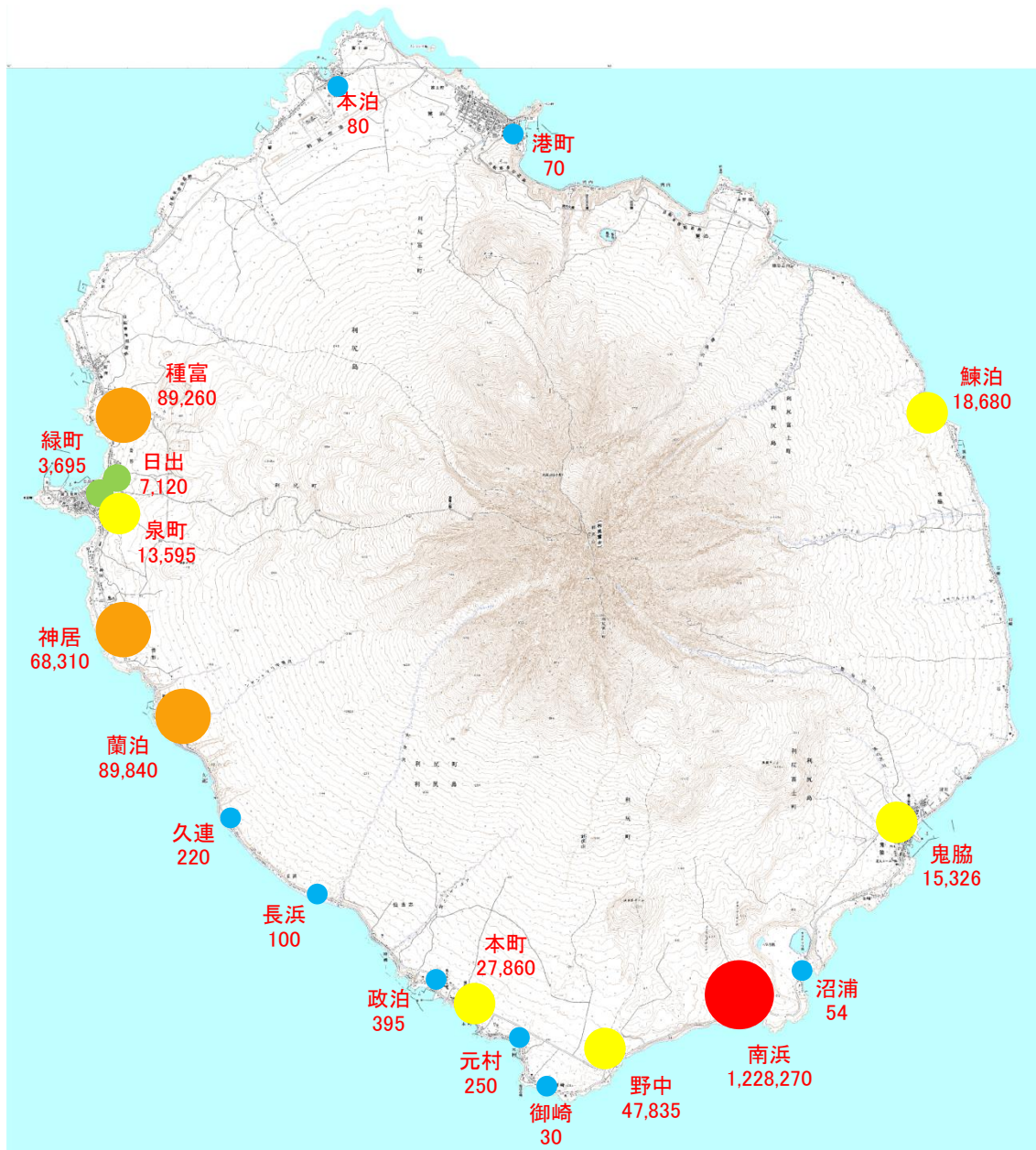


※赤文字は地区名、数字は推定分布数

- 1 - 1,000 本
- 1,001 - 10,000 本
- 10,001 - 50,000 本
- 50,001 - 100,000 本
- 100,001 本以上



図1 - 2. 利尻島におけるオオハンゴンソウの分布状況 (2011年)



※赤文字は地区名、数字は推定分布数

- 1 - 1,000 本
- 1,001 - 10,000 本
- 10,001 - 50,000 本
- 50,001 - 100,000 本
- 100,001 本以上

表 2. 2006 年と 2011 年における地区別推定分数の比較

地区	推定分布数 (本)		A-B	A/B	主な周辺環境
	2011 年(A)	2006 年(B)			
種富	89,260	90,453	-1,193	0.99	草地、自転車道脇、民家周辺、畑
富野	0	5	-5	0	道路沿い
緑町	3,695	3,420	275	1.08	民家周辺、畑
泉町	13,595	138	13,457	98.51	墓地、民家周辺、草地
日出	7,120	60	7,060	118.67	民家周辺、自転車道脇
神居	68,310	97,781	-29,471	0.7	工事現場、橋周辺、道路脇、昆布干場、畑
蘭泊	89,840	62,270	27,570	1.44	橋周辺、畑、沢筋の斜面
久連	220	1,400	-1,180	0.16	民家周辺
長浜	100	11,200	-11,100	0.01	道路沿い、民家周辺
政泊	395	50,060	-49,665	0.01	畑、道路沿い
本町	27,860	—	27,860	—	民家周辺、草地
元村	250	—	250	—	民家周辺、畑、橋周辺、道路沿い斜面上部
御崎	30	—	30	—	民家周辺
野中	47,835	641,000	-593,165	0.07	道路沿い、民家周辺など集落全体
南浜	1,228,270	1,971,400	-743,130	0.62	メヌウシヨロ沼周辺、集落全体
沼浦	54	46,120	-46,066	0	神社周辺、民家周辺、オタトマリ沼付近
鬼脇	15,326	14,820	506	1.03	小学校周辺、畑、川沿い、民家周辺、草地
鯨泊	18,680	120,000	-101,320	0.16	畑、草地
港町	70	—	70	—	民家周辺、草地
本泊	80	—	80	—	民家周辺、畑
合計	1,610,990	3,099,122	-1,488,132	0.52	

※      は駆除実施地区。